

# Agri Road

アグリロードながおか  
長岡市担い手育成総合支援協議会（事務局／長岡市農林水産部 農水産政策課）

No. **37**  
2022. 9. 30  
発行



[information]  
稲わら・籾がらを使って、  
田んぼを元気にしよう！  
ストップ農作業事故！  
ビニールハウス等の倒壊に注意！  
農楽仕事(のらばいと)を  
ぜひ活用ください！  
[農政 VOICE]  
時代は『循環型』『持続性』

## 特集 農業情熱ランナー～挑戦への道～ 堆肥施用への注目

## 3年ぶり！第5回 世界えだまめ早食い選手権が開催されました

農業者や地元企業の若者を中心として結成する「ながおか農challeプロジェクト実行委員会（代表：大島 健）」が、長岡市産の枝豆の認知度向上を目的とし、枝豆を早く、美しく食べることを競う選手権が7月10日（日）アオーレ長岡で開催されました。当日は、全国各地から選ばれた約90名の枝豆ファンが集い会場を盛り上げました。今年度の個人戦優勝には大阪府の女性、団体戦優勝には東京都から出場的女性チームが輝き、惜敗を喫した地元勢は次年度大会でのリベンジを誓っていました。



100秒間で食べきった枝豆の殻重量を競う個人戦



個人戦優勝者の「わさみよん」さん  
記録は84g（ハンデ10g含む）

### 稲わら・籾がらを使って、 田んぼを元気にしよう！

- 稲わら・籾がらは貴重な有機資源です。  
稲わら・籾がらは焼却せずに、すき込みや堆肥に利用し、環境にも人にも優しい米づくりに役立てましょう。
- 稲わらは、地力の向上に効果が見込めます。
- 籾がらは、ケイ酸質資材として活用できます。

※秋すき込みは、次のポイントに注意して行いましょう。

#### 秋すき込みのポイント

- 地温の高い10月20日頃までに行いましょう。
- 5～10cm程度の「浅うち」にしましょう。

#### 稲わら等の焼却は...

※焼却(野焼き)は一部の例外を除き原則禁止されています。焼却による煙は、車の視界を遮り重大な事故を引き起こしたり、地域住民の健康被害の原因となります。稲わら等は焼却せずに、土づくりに活かしましょう。



### ストップ農作業事故！

毎年トラクターなどの作業事故が多いことから、転倒・転落対策を徹底し、ゆとりをもって作業を行いましょ。

- ヘルメット・シートベルト着用の徹底
- 走行時のブレーキ連結の確認
- ほ場の出入り口の安全確認



### ビニールハウス等の倒壊に注意！

令和2年から3年にかけての大雪により、ビニールハウスの倒壊が多数発生しました。栽培を終えたビニールハウスは、ビニールを外したり、降雪前に点検・補修を行うなど適正な管理を行いましょ。管理が適正でなかった場合は、災害復旧事業の補助対象とならないことがありますので御注意ください。



### のらばいと 農楽仕事を ぜひ活用ください！

市内の農家と、農作業のアルバイト希望者を繋ぐスマートフォン用のアプリ「農楽仕事(のらばいと)」は、令和4年8月末時点で約1,700件のダウンロードをいただいております。累計28件のマッチングがされています。農繁期の人手不足や、数日だけ労働力が欲しい、という認定農業者の皆様は、ぜひ活用ください。

#### 学生と農家をつなぐアプリ



【ダウンロードから人材募集までの流れ】



アプリダウンロードはこちら



### 時代は『循環型』『持続性』

長岡市農林水産部長 北村 清隆

高度成長期は昭和29年から昭和48年と言われていました。その少し前に、「貧乏人は麦を食え」と言ったとして随分叩かれた政治家がいました。これはいわゆる「切り取られた発言」で真意を正しく伝えていないと言われていました。その方の経済優先思想は今日も揺るぎなく続いており、日本を経済大国に押し上げ、私たちの生活水準を向上させ、結果、食の多様化も生まれました。「麦」あるいはその加工品を食べることが、普通であり、むしろ贅沢、おしゃれな時代かもしれません。その麦は大半を輸入に頼り、昨今の世界情勢により供給量が激減しています。そして、米は化学肥料不足により、従来の生産体制が維持できない恐れが出てきました。焼畑農業に始まり、本来「循環型」であった農業が、効率性・生産性を追求した結果、化学肥料に頼り、化学肥料の不足に伴い生産が危ぶまれています。循環の崩壊です。

化学肥料を少しでも減らすためには、豊かな土づくりが重要で、そのためには、堆肥をはじめとした有機質資材の利用が最も有効で、かつ循環可能な農業への一歩になります。今回、市内で堆肥の利用を進める経営体を紹介しましたが、多くの皆様から「減肥」に取り組んでいただき、持続可能な農業になることを願って止みません。これからの農業を持続させるためには、減肥とともに省力化も重要なテーマです。農業機械の性能は向上し効率的にはなりましたが、運転はしなければなりません。水田の水管理は見て回るしかありませんでした。しかし、今は「自動運転」、「水位管理システム」で省力化も可能な時代です。市では、「あぐらって長岡」で「スマートアグリ」を体験し、実感していただく取り組みを始めました。興味のある方は是非ご覧いただき、農業の持続性を高めていただければと思います。



# 堆肥施用への注目

コロナ禍及び国際情勢の影響による肥料費高騰の中、有機由来の堆肥の施用が注目されています。

今回のアグリロードでは、堆肥散布を行なう団体AGR代表の田中和幸さんと、長岡地域認定農業者会会長で、所属する法人でも実際に堆肥を使っている宮島典男さんにお話を伺ってきました。



お話を伺った宮島さん(左)、田中さん(右)

**Q** 堆肥を施用するようになったきっかけは何ですか？

**A** 【宮島さん】年々稲の収量が減っていく現状で、昨年、地力を上げるためにはどうしたら良いかと考えた中で、土づくりのセミナーやJAの指導のもと、堆肥を使うことが最善ではないかと考えたのがきっかけです。今年は経営面積の約1割に堆肥を施用しています。

**A** 【田中さん】稲のみ穀の処理に加えて、脇川新田町にある有限会社 中島牧場さんから牛糞を提供いただけることになったのがきっかけです。散布は有志10数名の方々と平成16年から始め、人づいて散布が広まって、今では60haほど担っています。現在では、JAからのチラシ配布でも堆肥散布について周知をしています。

**Q** 圃場へのメリットはどんなところがありますか？

**A** 【田中さん】堆肥散布によりすくはれば効果が出るわけではありませんが、少しずつ土壌の栄養が蓄えられて、地力の質が良くなっていきます。3〜5年間使用することで、少しずつ地力の質が変化していくことがあげられます。

**A** 【宮島さん】農業者目線からのメリットとしては、環境保全型農業直接支払制度の長期中干しと堆肥の施用に対する補助を受けているので、生産コストへの面では助かっています。また、最終的には、稲が病気になるリスクを減らし、収量アップが望めることがメリットです。

**Q** 化学肥料との兼ね合いについて教えてください。

**A** 【田中さん】基本的に堆肥だけの生育は難しく、化学肥料を施用したうえで堆肥を施用することで土壌の質が良くなり、稲の生育に繋がります。

**A** 【宮島さん】化学肥料は地力向上への動き目と言わば速効性で、長い間には知らず知らずのうちに土壌養分が痩せたり、偏ったりしてきてしまいます。しかし、堆肥も施用することで土質が改善され、稲の生育に優しい土壌にするのがいいですね。

**Q** 最後に、他の農家の方へ堆肥散布をおすすめするメッセージ等をお願いします。

**A** 【宮島さん】堆肥は昔ながらの循環型農業で、環境に優しい手法です。また、堆肥散布により土壌の栄養の支えとなり、より美味しいお米の生育につながると思います。

**A** 【田中さん】現在AGRでは、堆肥散布を利用しているところを示範して、近い圃場への散布か

ら広げていけるようにしていきたいと考えています。是非、堆肥の施用を検討してみてください。



堆肥散布機 マニュアルスプレッダー

お忙しい中にも関わらず、快くお話を聞かせてくださいました。田中さん、宮島さんありがとうございました。

現在、肥料費高騰により堆肥施用が注目されている中で、地力の質が向上したり、稲の収量増加や病気の対策にも役立ったりと、具体的に堆肥のメリットを伺うことができました。今後、化学肥料の高騰や品薄が見込まれており、より堆肥の施用が目されるかと思っています。お二人のお話から、堆肥施用は環境に優しい昔ながらの循環型農業にもつながり、より一層稲の生育に良い影響を与えていると感じました。

## 新潟県優良農業経営体等表彰

### 経営改善部門で田口正一さん(中之島地域)が表彰されました！

県が農業経営の改善及び先進的な生産技術の活用等、担い手の経営発展を支える取組において優れた功績をあげた農業者を表彰する、新潟県優良農業経営体等表彰優良認定農業者の部/経営改善部門で令和4年度新潟県農業協同組合中央会会長賞を受賞されました。

田口さんが「にいがた和牛」ブランド立ち上げに携わり、高い肥育技術と近隣耕種農業者と連携して稲わらや祖飼料を完全自給する体制づくりを行ったことなどが評価されました。



## 環境にやさしい農業しませんか？



環境保全型農業直接支払制度は、地球温暖化防止や生物多様性保全等に効果の高い取組を実践する農業者等を支援するものです。

この制度を活用し、環境にやさしい農業に取り組んでみませんか。

- 対象取組の具体例
- 堆肥の施用 4,400円/10a (最大)
- 長期中干し(14日以上の中干しを実施) 800円/10a
- 秋耕(水稻の収穫後(秋季)に耕うん) 800円/10a
- 有機農業 12,000円/10a など

※化学肥料・化学合成農薬を地域の慣行レベルから原則5割以上低減する取組と対象取組を合わせて行うことが必要です。

お問い合わせ  
長岡環境保全型農業推進協議会事務局  
(長岡市農水産政策課農産係) TEL 0258-39-2223

## アグリロードながおかの紙面記事・表紙写真を募集します!!



本誌「アグリロードながおか」は、年に2回、9月と3月に市内各JAや認定農業者の方を対象に発行しております。取材してほしい取り組みや内容がありましたら、事務局までご連絡ください。

また、紙面の表紙を飾る写真も募集します。事務局で選定し、撮影者に事前連絡のうえ、氏名・撮影地域とともに掲載します。

※写真の内容は、農業に関係するものに限りです。  
※写真の応募はメールをお願いします。タイトルには必ず【アグリロード写真応募】と記載いただき、ご連絡先の氏名、電話番号、撮影地域を明記してください。

〈応募・お問合せは、事務局まで〉  
事務局 長岡市農水産政策課担い手育成係  
電話 0258-39-2223  
メール nousei@city.nagaoka.lg.jp

## あぐらって長岡で、スマート農業を気軽に体験しませんか？

# スマート農業機器体験コーナーを新設

農業の省力化・品質向上への効果が見込まれるスマート農業。既に活用されている生産者の皆様もいらっしゃると思いますが、種類や使い方、使い勝手などが今一つ分からず、導入に二の足を踏んでいる生産者の方も多いのではないのでしょうか。

そこで、長岡市では、様々なスマート農業機器を実地で体験できるコーナーを「あぐらって長岡(栖吉町3670)」内に設置しましたので、ぜひご利用ください。

体験の実施日・申込については、公式ホームページ【<https://smartagri-nagaoka.jp/>】で、ご確認ください。



体験できるスマート農業機器の一例

- 各種ドローン
- 後付け自動操舵システム
- アシストスーツ
- ラジコン草刈機